



第44号 (年4回発行) 編集発行 弘前学院大学 前報委員 印刷所 (有)小野印刷所

秋こそウォーキング

学長 吉岡 利忠



「桜と、お城と、林檎の街、弘前。この響きのよいフレーズは、小さなパンフから大きなポスターまで街のあちこちで見かける。短い秋がやって来た。大学のキャンパスの桜や白樺の葉も紅葉しつつあるが、この弘

前市は、秋の季節もそうであるが、冬は雪燈籠祭り、春は桜祭り、夏はネプタ祭り、四季折々の楽しみがあり、また、海、山、川からの豊富な食材の恵みを受け、全国から訪問してみたい観光地としてのランキングは常に上位であるという。特に食材の豊富なことでは他県に

引けを取らない。しかも、食材のどれ一つをとっても美味しい。弘前市はそれらを徹底的に生かしたことでフランス料理の街とも言われるが、それにも増して美的感覚を加えた日本料理の街と言ってもよいだろう。しかし、郷土料理も負けてはいない。美味しく栄養豊富な津軽地方の食生活では、カロリーオーバーが指摘され、他県に比して小児から成人まで肥り気味の人たちが多いという統計がある。また、悪いことに平均寿命、健康寿命(健康で自立した生活ができる生存期間)は、最下位の県でもある。さらに、残念なことではあるが、このころの病による自殺者数も多い。これは過食と運動不足に

よる腹部肥満(内臓脂肪症候群)が強く関わっていることが多くのデータから指摘されている。この生活習慣が続くと糖尿病や脂質異常症(高コレステロールや高中性脂肪である高脂血症)となり動脈硬化、高血圧、脳卒中などとドミノ倒しのようになってしまうことは承知のことである。このようなネガティブスパイラルから何とか脱却しようと、運動、低カロリー食、粗食、減塩、禁煙などが推奨され、市町村はもろろんのこと県そして国の関係部署からさまざまな施策が出され、県民・市民のための健康増進・維持が叫ばれている。

さて、これにどのように対応すればよいのであろう。過食については、この季節、津軽の秋の味覚を堪能せざるを得ないので、少々、分量を控え目にするのがお勧め。また、口に入れた食べ物を少なくとも20回以上よく噛みなさいと推奨されるが、ゆっくり時間をかけて味わいながら食するのが良いということである。時間をかけて食べるというこ

とは、食べ物が消化吸収されて頭の中にある満腹中枢が刺激され満腹感を催すことになる。お腹一杯食べないで食べた気がしないという人たちは、往々にして、肥満気味の人たちであり早食いがその要因である。すなわち、早食いは満腹中枢が刺激されないのお腹一杯食べられることとなる。

一方、運動不足については、運動の秋と言われるように、町や市や県や国が勧めている趣向を凝らした健康づくりイベント・運動があり、さらに紅葉をもとめて山歩き、散歩、運動会、ジョギング、マラソン大会など盛り盛り沢山。それらを活用することに尽きるが、やはり健康に良い運動はウォーキングが一番。手っ取り早く安全でかつ健康維持・増進には最も効果的である。「スローピング」という言葉がある。「スローピング」は、坂道、傾斜を意味するがそれを動詞にして現在進行形にした単語である。すなわち、坂道を上る下ることである。上ることは、坂道の勾配の角度にもよるが、かなりのエ

ネルギーを必要とする。そのエネルギーは筋肉や肝臓内のブドウ糖から作られ脂肪も使われる。また、坂を下るときに使われたエネルギーは補充される。すなわち、坂道を上ることでエネルギーを消費し、下るときにエネルギーを回復するということになる。効果的ではあるが「スローピング」は勾配がきついと少々疲れる。やはりウォーキングがお勧めで、弘前市界隈は坂道が多いのでウォーキングはスローピング兼ね備えた運動になる。

多くの脂肪も消費され肥満解消になるであろうか。弘前市の繁華街は、駅前通りや上・中・下土手町であるが、その道路で練り広げられる「よさこいソーラン津軽」は、激しい運動の繰り返しであるといえる。目にも眩しからぬ。大きな旗を振り回すだけでもかなりのエネルギーが必要である。多くの「連」がソーラン節の大音響とともに通りを乱舞する。この動きを分析しようとしたことがあるが、瞬発力、筋力、持久力などさまざまな種類の動きがあり一筋縄ではいかない。瞬発力とか筋力とか一つ一つの動きは分析可能であるが、それらが絡み合う乱舞のエネルギーを計算することは難しい。しかし、多くのエネルギーが消費されることは間違いない。また、訓練によるスムーズな動きは運動神経の協調作用が加わり、ぎこちない動作はな

■渡米とピットン駅事件
明治二十二年二月二十一日大日本帝国憲法が公布され、第一回衆議院総選挙は一年後に迫ってきた。本多が上京したころには、選挙が行われることがスケジュールに乗り、全国の世論はわき上がり、弘前も同様であった。弘前での衆目は当時郷里の指導者として、菊池九郎、本多庸一に集まっていた。



学校法人弘前学院 理事長 阿保 邦弘

あつたらうか。本多は若くして横浜に学び、そこでキリスト教の信仰に目覚めるとともに、近代西洋の学問と文化を学んだ。横浜という窓口を通して新しい価値体系や思考方法を垣間見た彼がさらに、本場でこれを究め、またその上にたつ西欧の社会政治の実際に触れたいという希望をかねてから持っていたとしても当然であろう。この場合、本多にとって

てからの念願を実現しようと考えたのであろう。この春にはすでに二子を託していく約束で再婚している。いずれにせよ、急に思い立ったのでもなく、具体的な用務がおこった訳でもなかったようである。しかし、明治二十年、二十一年というこの時期に彼が強く渡米を希望したことはタイミングから考えて、間近に迫った国会開設に備え海外の視察をしてきたかったという動機につながるのではあるまいか。

本多が渡米の途に就いたのは、明治二十一年(一八八八)九月十八日であった。弘前における本多の支持者たちも、在米中の本多にたびたび手紙を送ってその決意を促し立候補を要請してきた。当時アメリカの新聞も、この日本の体制についていろいろ書き立てていた。本多自身にも出馬の意が動いた。ところが、当時の議院法の規定では、神官、僧侶、牧師等宗教の教職は国会議員になることが禁じられていた。「大いにやってみる野心があった」という本多

は、自らこの件について国もとに紹介の手紙を書いて確認している。その結果、青森県庁の見解では、立候補するためにはやはり教職の資格を捨てなければならぬという返事に接したのである。本多はこれまで、政治と宗教、それに教育の三本立てを彼の内面で有機的に連関させ、それらの間に大した矛盾を感じることもなく、これを鼎立させてきたのであった。そしてこのよう

な議員資格制限をえなければ、今後ともむしろ積極的にこれらを鼎立推進させていくつもりであったに違いない。彼は政治にも宗教にも、教育にもそれぞれそれなりの自覚と意欲を持ち、どれか一つのために、他を捨てるなどということは思っても見なかった。ところが、ここで初めてど

れかを捨てなければならぬ選択を本意ながら強いられることになった。まったく予期していなかった二者択一という難問に突然直面して、彼は初めて迷わざるを得なかったであろう。

ここで本多の精神的回転のクライマックスがやってくる。それは政治家宗教家の岐路に立って、迷い悶々たる時に、その身の上の一つの大きな事件が起りそれがかれの生涯を方向づけることとなったのであった。有名な列車禍危機一髪のエピソードである。岡田哲蔵の「我が先生」にある名文の概要を紹介する。「宗教を取るか政治を執るか大いに迷っていた頃、本多先生はベンシールバニア州スクラントンで夏を過ごした。同行していた今日は男爵に

多くは、このことを覚えていたに波打っていたことを覚えている。このことを覚えていたに危険な状況にあったかは推察できる。』と。この危機を逃れることができたのはひとえに先生の沈勇と武士の修養によるというべきであろうか。列車が接近するのにも気づかないほどに、何かを深く考えこんでいるときの出発であった。先生がこの事件を上天の警告と判断したのは間違いのないところである。昔、落雷が友人を襲う事件がきっかけとなってヨーロッパ宗教改革史が始まったという故事を思うとき、このピットン駅の出発事は日本宗教史の重要な出来事といえようか。

先生の生涯の転機はこのようにして現出したのである。先生は敢然として多くの道をあきらめ、進む道を宗教唯一に決めたのであった。」

1. 本学の宗教部が中心となり、学内の教職員及び学生に呼びかけて義援金を募ったところ、総額17万635円となりました。ご協力いただきました皆様には心からお礼申し上げますとともに、この義援金は日本赤十字社へ送付したことを報告いたします。

2. 被災された平成24年度新入生に対する経済支援として、本学は年額授業料の半額減免をいたします。罹災証明書等および被災を確認できる書類等を提示できる方が対象になります。

東日本大震災により被災された方々への支援

が不可能になる。パテてしまうのだ。この「よさこいソーラン津軽」でも、乱舞が続くことが不可能な踊り手も見かける。この場合、脂肪の消費は少ない。脂肪を消費するには、その動きが瞬発的なものではなく強力な筋力発揮でもなく、手足を自由に動かしながら長時間継続できるウォーキングが最も脂肪の消費が大きいことになる。

というわけで健康維持の観点からはウォーキングが推奨される。脂肪を燃焼し、安全でかつ効果的である。また、ウォーキングでは周囲の環境を見ながら美味しい空気を吸いながら、そして、鳥の鳴き声など聴ながら、いわゆる五感を刺激しながらできる。また、いろいろと考えながらウォーキングができるし頭の活性化も期待できる。京都には「哲学の道」と呼ばれる小道もあり、多くの哲学者や芸術家はその道を楽しんだようだ。まさに道遣派である。運動の秋をウォーキングで十分に満喫していただきたい。

談話室

二人の青年



文学部 教授 佐々木正晴

とある日、我が家にオレオレ詐欺の電話がかかった。何故、オレオレ詐欺のような悪事が起こるのだろう。

その日夕刻、卒業生の誕生会で西弘前の居酒屋『村祭り』(いまは『愉快』と改称)で、しばらくしてトイレにいくと、先客一人、大柄な青年。彼の横に並ぶと不意ににらまれ、「おじさん、幸せか?」「ウン、幸

せだよ。青年は唇を噛み締め、うつむいている。なにかつらいことでもあるのかなあ...

洗面台の前で改めて向き合おうと、「おじさん、若いときは幸せだったか?」。青年は20歳位に見える。「ウン。20歳の頃、どう生きていけばいいのかとんとわからなくて、つらくて、切なくて、とてもとても、幸せ

だったとはいえないなあ。青年はまたうなだれて唇を噛みしめる。「それなら、何故、いま幸せなんだ?」。このこ、ただのよっぱらいにむずかしいことばかり聞くなあ。

「阪神タイガースを優勝に導いた星野前監督さん、黒柳徹子さんの番組に出演し、幸せとは何かと問われて曰く、男の幸せは夢をもつことだ、と話されていましたよ。青年は花が開いたように満面の笑顔で、トイレのドアを開け、『ドゥゾ』と手招きしてくれた。

一時間ほどしてから、友だちと二人でわれわれの席に来て、自己紹介してくれた。木村くん

と福士くん。「おじさん、ここで飲んでいいか?」。二人とも笑顔、上機嫌。

われわれの席にぐるまでほぼ一時間、彼らは幸せとは何か、夢とは何か、熱く語り続けていたように思える。幸せが何か判然としなくとも、幸せとは何か、

夢とは何か、この世の美しい概念を巡り考え続けるとき、人間は悪事を犯さないような気がした。オレオレ詐欺のような悪事が何故起こるのだろうか、彼らが答えを出した。

木村くん、福士くん、どうしておられますか。蛸の小鉢をサービスしてくれた当時の『村祭り』主任エンジェル中川さん、どうしておられますか。

弘前学院校友会様へ感謝状贈呈

この度、弘前学院校友会(会長 中田悦子)様より、大学の礼拝堂の長椅子用座布団40枚を寄贈されました。十月十三日(木)の礼拝終了後に感謝状の贈呈が行われました。学長より、これまでの数々の援助にも謝辞が述べられ、感謝状を贈呈された。校友会より6名の方々が出席され、代表して坪田庸子副会長が感謝状を受け取られた。



十月一日(土)、弘前学院大学本館4階のフロアを主会場として、日本比較文化学会第33回全国大会が開催されました。(協力学会・韓国日本文化学会、台湾日本語学会) 本大会は当初、六月十一日に開催される予定でしたが、今回

の大震災の影響により十月一日へと、日程が変更されました。全国大会が東北で開催され、各地から多くの会員が参集したのは、東北の復興にとって、多に意義あることと思われま

す。当日は8時30分から編集委員会、9時20分から理事会が開かれた後、10時30分からシンポジウムが414教室で開かれまし

日本比較文化学会 第33回全国大会について

文学部 教授 佐藤 和博

た。テーマを「研究アプローチの諸相」として、高橋栄作氏の司会及びコーディネーターの下、各発表者の発言の後、質疑応答がなされました。分野として、あまり縁のない研究部門の研究手法について、興味深い話が披露されたように思われます。

総会の後、13時40分から、弘前学院大学学長、吉岡利忠先生による講演が、礼拝堂において開かれました。テーマは「宇宙とからだ」。一見難しそうな話に思われたかもしれませんが、あまり普段耳にする事無い「宇宙」における「人間のからだ」の話は、「おもしろかった」と、大変好評でした。

14時40分から各教室において研究発表がおこなわれ、19名の発表者

最後に、肌寒い気候のなか、遠方よりお越し下さいました皆様、また裏方で大会を支えて下さった大学関係者の方々に、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

歴史を通して現代の戦争

平和について考える

社会福祉学部 講師 遠藤ゆり子



私の専門は、日本中世史研究です。特に、戦争が常態化した戦国時代の南東北地方を主な研究対象としています。

例えば、初代仙台藩主となる伊達政宗や、その母保春院、政宗の伯父で保春院の実兄、山形の最上義光等が残した史料を読み解き、戦国社会の特色を考えています。親戚関係にある伊達氏と最上氏は、近隣の領主たちを巻き込む戦争を何度も繰り返して

いました。そのような中、

両家と縁のある保春院は、両家の間を取り持ちました。その時に書かれた長い手紙の数々からは、保春院が両家のために、これまで培ってきた人間関係を活か

し、必死な働きかけをしてきたことが伝わってきます。従来の研究では、戦国大名家は勢力拡大や同盟関係維持のために「政略結婚」を進めたと評

価され、大名家の女性は政治の道具にされた被害者のように描かれてきました。けれども、保春院関係の史料からは、彼女が自らの立場をよく理解し、主体的に行動していたことがわかります。またその活動は、例えば和睦交渉をし、戦争を終結させ

るなど、単に大名家の問題にとどまらず、大名の支配領国に住む人々の生活や生存問題に、大きな影響を与えるものでした。つまり、彼女が果たした役割については、大名家における政治的側面だけではなく、領国を支配する大名家の女性として、

民衆を含めた人々の生活・生存の維持に努めたという社会的役割も評価すべきでしょう。けれども一方で、伊達・最上両国の戦争を優位に導くため、積極的に援軍を求めると、敵対する国にとっては加害者でもあったという重い事実も明らかとなりました。一見、華々しく見える戦国大名の戦争も、戦争を支えた人々に目を向けることで、時には現代の戦争・平和についても考えさせられることがあります。私は、それが戦国社会を研究する意義の一つだと思っています。

弘前学院大学地域総合文化研究所報告

地域総合文化研究所長 笹森 建英

今年度の行事では、文学部が企画した講演会を行いました。國學院大学の兼任講師の入江英弥氏による「福島の祭り」と芸能」でした。12月には、次の3回の講演と講座が予定されています。どうぞお出かけください。いずれも入場無料です。



1. 看護学部企画「緩和ケアの歴史と現状」
講師 秋庭聖子氏 (青森県立中央病院)
日時 2011年12月3日(土) 14時~16時
会場 弘前学院大学礼拝堂
2. 研究所(鈴木克彦研究員)企画
「北日本・民族文化の考古学・考現学講座」
講師 中村哲也氏 (青森県埋蔵文化財センター)
三浦正人氏 (北海道埋蔵文化センター)
森岡健治氏 (沙流川歴史館)
遠藤匡俊氏 (岩手大学)
武藤康弘氏 (奈良女子大学)
司会 鈴木克彦
日時 2011年12月11日(日) 9時~15時半
会場 弘前学院大学礼拝堂
3. 社会福祉学部企画「東日本大震災と歴史資料の救出」
講師 平川 新氏 (東北大学 東北アジア研究センター・教授
NPO宮城歴史資料保全ネットワーク理事長)
日時 2011年12月17日(土) 14時半~16時半
会場 弘前学院大学 1号館115教室

お知らせ

クリスマス礼拝・クリスマス音楽の夕べ

◆クリスマス礼拝

12月15日(木) 16時より

◆クリスマス音楽の夕べ

12月15日(木) 18時30分より

場所: 弘前学院大学 礼拝堂
入場無料(整理券配布)
尚、音楽会については、本学まで問い合わせ下さい。
連絡先 弘前学院大学宗教部 34-5211 大坊



「教職志望者のための

「ブレ実習」を終えて



文学部 講師 須川 公央

去る九月二十九日、「教職志望者のためのブレ実習」(以下、ブレ実習)が近隣の弘前第三中学校において実施された。対象は、教職課程を履修している文学部・社会福祉学部の三年生、計一九名の参加であった。弘前第三中学校との不思議な縁から始まったブレ実習は、今年で二年目を迎え、徐々にではあるが本学教職課程のプログラムの一つとして定着しつつある。

実習内容は、主として授業観察がメインであり、自らの取得

それ以前の学年段階において学校現場の実際を肌身で体験する機会がカリキュラム上設定されていなかった。科目として設定されていないとは言え、三年次にあって新たにブレ実習が設けられたことは、教職を真剣に志す者にとってはモチベーションの維持・向上につながるし、自己の適性を早い段階から確認できるといいう意味でも、有意な機会となる。このことは、今回参加した学生たち

社会福祉協議会での実習を終えて

社会福祉学部四年 佐々木啓乃



私は、藤崎町社会福祉協議会で、二十三日間、社会福祉実習を行いました。実習では、藤崎町社会福祉協

き、説明を受けたことの理解が深まったと感じています。実習で印象に残っていることの一つに、社協の事業に参加している地域住民の方々と多くの関わりを持つことができたということがあります。社協の実習では、介護予防事業や一人暮らし高齢者の支援事業等、様々な事業に参加させていただいたことで、多くの地域住民の方々と関

精神保健福祉援助実習を終えて

社会福祉学部四年 坂田あゆみ



私は、精神保健福祉援助実習を就労継続支援事業所と精神科病院で行いました。事業所での実習は、休憩室が利用者と同じ部屋でした。初日から利用者の方からも私に話しかけてくれたため、会話は出来ていました。話題を見つけたら積極的に話しかけていこうと家まで日誌を書きながらサツカーを覗いたりしたのですが、それでも詳しい話になるとついていけず、自分の知識不足を感じました。そのため、PSW(精神保健福祉士)として私が支援していくために、様々な知識を増やしていこうと思

平成二十三年度

九月份学位記授与式挙行

平成二十三年度九月份の学位記授与式が去る九月二十七日(火)午後三時三十分より本学礼拝堂において挙行されました。今年度は、文学部英語・英米文学科一名、日本語・日本文学科一名の計二名の卒業と、大学院社会福祉学研究科一名の修了者でした。

阿保邦弘理事長・吉岡利忠学長はじめ、関係学部・大学院の教職員の臨席のもと、厳粛に式が執り行われました。パイプオルガンの演奏と讃美歌合唱に始まり、楊尚真宗教主任の聖書朗読、祈禱の後、吉岡学長より卒業証書が授与されました。吉岡学長より卒業生にお祝いと励ま



看護総合実習

緩和ケア病棟での学び

看護学部四年 西谷 幸三

私は、緩和ケア病棟で看護総合臨床実習を行いました。緩和ケア病棟では終末期の患者が入院しています。患者の希望が実現できるように積極的に援助して



いかに患者の望む最期を迎えるために必要なことなのかを学ぶことができました。このことは、緩和ケア病棟だけではなく、他の病棟でも共通することだと考えた実習でした。

成人看護領域

周手術期病棟での学び

看護学部四年 川村 理世



約一年間続いた臨床実習のまとめであり、以前から興味があった外科病棟での周手術期実習でした。近年、がんの死亡上位を占める大腸がんや胃がん等、回診で全病室を回ることで様々な術後患者を見ることができ、実際にがん患者が多いと感じました。そして患者それぞれに個性があることや、捉える問題の違いを学ぶことができました。

私の受け持った患者は認知症を併存し、理解力・判断力の障害により「手術」と聞いただけで興奮状態になり、安全に臨むためには「検査をする」と説明するしかありませんでした。これは看護倫理である誠実・忠実に反しますが、家族や看護師もそう説明することで、患者は落ち着いた状態です。今後ますますとができました。今後はますます認知症患者が増えることと予想されています。私たちが臨床に出て自己決定が困難な患者に出会った際は、患者を尊重する態度を示しつつ、患者にとって最善のケアを尽くせるよう心掛けていきたいと思

学内就職セミナー

弘前学院大学独自の企業説明会

- ◆日時 2012年1月12日(木) 午後1時~4時まで
 - ◆場所 弘前学院大学 体育館
 - ◆対象 文学部・社会福祉学部
- 合同就職委員会

弘学祭を終えて

学祭実行委員長 看護学部二年 山本 浩貴



今年も弘学祭が開催され皆様のご協力のもと無事に終えることができました。今年も「弘学アゲアゲ↑↑」というテーマとさせていただきます。このテーマは私達学祭実行委員が学祭の前線に立

ち皆様を引っ張っていくと同時に、自分達の仕事であるイベントや模擬店を成功させるために盛り上げたいという気持ちと来ていた。いざ自分たちが前線にた立ち事をしていくと、大変荷が重い仕事であると感じ、学校の一大イベントであるこの学祭の責任の重さを感じプレッシャー、ストレスに悩まされてきました。当日が近くなるに従いそのストレスは増し、意見や気持ちのぶつかり合いも多々ありました。しかし、皆学祭が間近と意識したとき、ぶつかり合いは消え、一人は皆のため、皆は一人のためにと、献身的に働くようになりました。学祭の準備は前日も必死におこないました。緊急企画である弘前400年

「いってまい」検定へ行く

看護学部二年 高宮 温美

私は、学園都市ひろさき高等学校育機関コンソーシアムの学生委員「いってまい」のメンバーです。「いってまい」とは弘前市内にある六大学(弘前大学、弘前学院大学、東北女子大学、東北女子短期大学、弘前医療福祉大学、放送大学)の学生が有志で集まった団体です。これまでチャリティ大学祭や街づくりプラン策定に向けた話し合いなど、学生目線で意見を出し合いながら弘前の活性化のために様々な活動をしてきています。

市役所、大学コンソーシアム石川、学生団体「創ル部」の3ヶ所で、「学生のまち」としてどのような活動が行われているかお話を伺ってきました。金沢市は、市内に十八の大学・短大・高等専門学校と二十九の専門学校があり、学生数は約三万五千を数える全国屈指の学都です。金沢市役所では、平成



今回、九月十九日から二十一日に、私たちは石川県金沢市を視察してきました。金沢市は「学生のまち」としてまちづくりが進んでいると聞き、私たちの活動の参考になりそうな事例であると考えられたためです。訪問場所は、金沢

祭の事前ライブや豪華景品を用意したじゃんけん大会などを行ったところ、大好評でした。しかし、学祭成功までの道のりは決して容易なものではなく、苦悩と困難が度重なり、学祭実行委員誰もが不安な気持ちでいっぱいでした。いざ自分たちが前線にた立ち事をしていくと、大変荷が重い仕事であると感じ、学校の一大イベントであるこの学祭の責任の重さを感じプレッシャー、ストレスに悩まされてきました。当日が近くなるに従いそのストレスは増し、意見や気持ちのぶつかり合いも多々ありました。しかし、皆学祭が間近と意識したとき、ぶつかり合いは消え、一人は皆のため、皆は一人のためにと、献身的に働くようになりました。学祭の準備は前日も必死におこないました。緊急企画である弘前400年

いっばいでした。しかし、時間が経つとその雰囲気も皆慣れ自信をもち、行うことができました。この学祭で努力の結果になって返ってくるというのを皆に忘れないでもらいたいです。委員長として今回の学祭では、学んだことがたくさんありました。人を纏める・使うことの難しさ、責任を与えるという責任感、常に中立の立場でいなければならぬこと、たくさんありすぎて書ききれませんが、学べたことはたくさんあり委員長をやつて良かったと思っております。

今年度の学祭は私たちが学祭実行委員会を含めた学祭に協力してくださった皆様の気持ちが込められています。この学祭が皆様の心につまみでも残ることを願っています。そして、今回協力していただいた方々一人ひとりに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

今日、みなさんにミスターラージについて勉強していただきたいと思ひます。みなさんは、このサークル名がもつと長いことを知っていますか。実は、「ミスターラージ」知的障がい者児 関連勉強会」という名前なのです。EXILEの曲名みたいですね。もしよかったですら、今後フルネームで呼んであげてください。そして、もしかしら「ミスターラージ」という名前の意味も気になっていきますよね。これは、[Mental (知的) Retardation

ミスターラージ(MRLG)論

社会福祉学部三年 成田 りえ

今日、みなさんにミスターラージについて勉強していただきたいと思ひます。みなさんは、このサークル名がもつと長いことを知っていますか。実は、「ミスターラージ」知的障がい者児 関連勉強会」という名前なのです。EXILEの曲名みたいですね。もしよかったですら、今後フルネームで呼んであげてください。そして、もしかしら「ミスターラージ」という名前の意味も気になっていきますよね。これは、[Mental (知的) Retardation

(障がい) Learning (学習) Group(会)の頭文字が、ミスターラージ(MRLG)という名前の意味です。初めて知った方、ここで手を挙げてみましょう。私たちは、多くの部員が「自分を向上させたい」と思ひながら、日々活動をしています。例えば、コミュニケーション能力を高めたい、障がい者児についてもっと学びたい、積極性を身につけたいなど、一人ひとりが自分なりの目標をもっています。主な活動内容は、一言で言うとうボランティア

活動です。ボランティアと言っても、私たちは障がい者・児の施設に行き、季節ごとに行われる行事に利用者の方と一緒に参加したり、行事の準備などのお手伝いをしたりしています。様々な施設に行くことができ、多くの方と関わることでできるため、学ぶことが盛りだくさんあります。そのため、自分の成長を自ら感じることができるといえます。現在、ラージの部員は50人です。この50人の中には、一年生と大学院生まで、そして社会福祉学部だけではなく文学部、看護学部の学生もいます。しかし、男性部員が15人ほど少ないことが今の課題です。我こそは!と思う男性の方

身近なライフサポート

地域に根ざした支援

実行委員長 社会福祉学部二年 齋藤ひかる



このヒログク福祉創造フォーラムへの参加を通じて、一人ひとりが今日の福祉課題を適切に捉え、取り組むべき方向と方法の模索を

重ね、地域社会の福祉向上に向けて働く確かな働き手として、自らが見いだしていくことを目的としています。今年の第四回は、「身近なライフサポート」地域に根ざした支援」をテーマにフォーラムを開催します。普段、私たちが生活している地域には、どのような社会資源があるのかを学びます。また、地域

おり、入部時からそれぞれの部員が庶務・営業・装飾・ステージ・広報といった部署に所属することになっています。部署間や部署内では定期的で効率的な会議が行われ丁寧な情報共有がされる、という具合に、学生のみですべての企画運営を行う「創ル部」の活動に私たちは感銘を受け、時間を過ぎても興味深く話を聞いていました。私たち「いってまい」は、顧問の先生や職員の方から、沢山のアドバンスやサポートを受けて活動をおこなっており、今後ますます一

福祉に対しての視野を広げ、私たちにもできる支援について皆で考え「気付き」を得る場とします。▼とき 十一月六日(日) 午前九時半〜午後四時半 ▼ところ 弘前学院大学(稔町十三一) ▼内容 ①基調講演「身近なライフサポートとは」/成田全弘氏(社会福祉法人 藤崎町社会福祉協議会事務局 社会福祉士)②施設販売(パン・焼き菓子等の販売)③ワークショップ(現場の方といっしょに)社会福祉の古典・名著を読む・施設紹介(販売にきている施設の紹介)④インタビュー 報告 津軽地域

によるまちづくりプラン」策定の中間報告会を実施します。弘前市長、六大学の学長、そして私たちと一緒に、学園都市ひろさき、大學生が作る未来の弘前について考えてみませんか? 詳細は次の通りです。日時 十一月十三日(日) 十三時半〜(開場 十三時) 会場 弘前市民会館 大会議室 *参加無料、事前の申し込みは不要です。 *直前情報 弘前の学生耳より情報は、「いってまい」検定!

ク」を県内外へ配布したり、新入生に県内の文化財や博物館に無料で入館できる「学生パスポート」を配布したりするなど、学生にとって魅力的な取り組みを行っています。また学生のみなならず、大学教員・高校生・地域企業も参加し、県全体を巻き込んだ活動をしていることが、弘前と異なる点でした。三つ目の訪問先である「創ル部」は、「金沢のまちをもっとおもしろくしたい」をコンセプトとして合同大学祭を中心にイベントを行う独立した学生団体です。私たちが

訪問したときは、今年度のまさにその合同大学祭の直前準備の最中でした。このようなイベントを行うために「創ル部」は、地元企業との連携を重視して行っていました。よりの多くの協賛を継続して得るために、企業へのアプローチを本格的に行い、広告提供の依頼、大学祭への招待や、協賛御礼パーティーを行うなど、関係を深めていきました。また、「創ル部」は大学の壁を越えて、学生が自律的な組織運営をしているという意味でも示唆的でした。八十人以上で構成されて

「いってまい」では、この「学生

私こそは!と思う女性の方、毎週月曜日の12時〜259号室で定例会を行っているの、是非ひよっこりとのぞきにきてみてくださいね。愉快的仲間たちが、たくさんいますよ。

